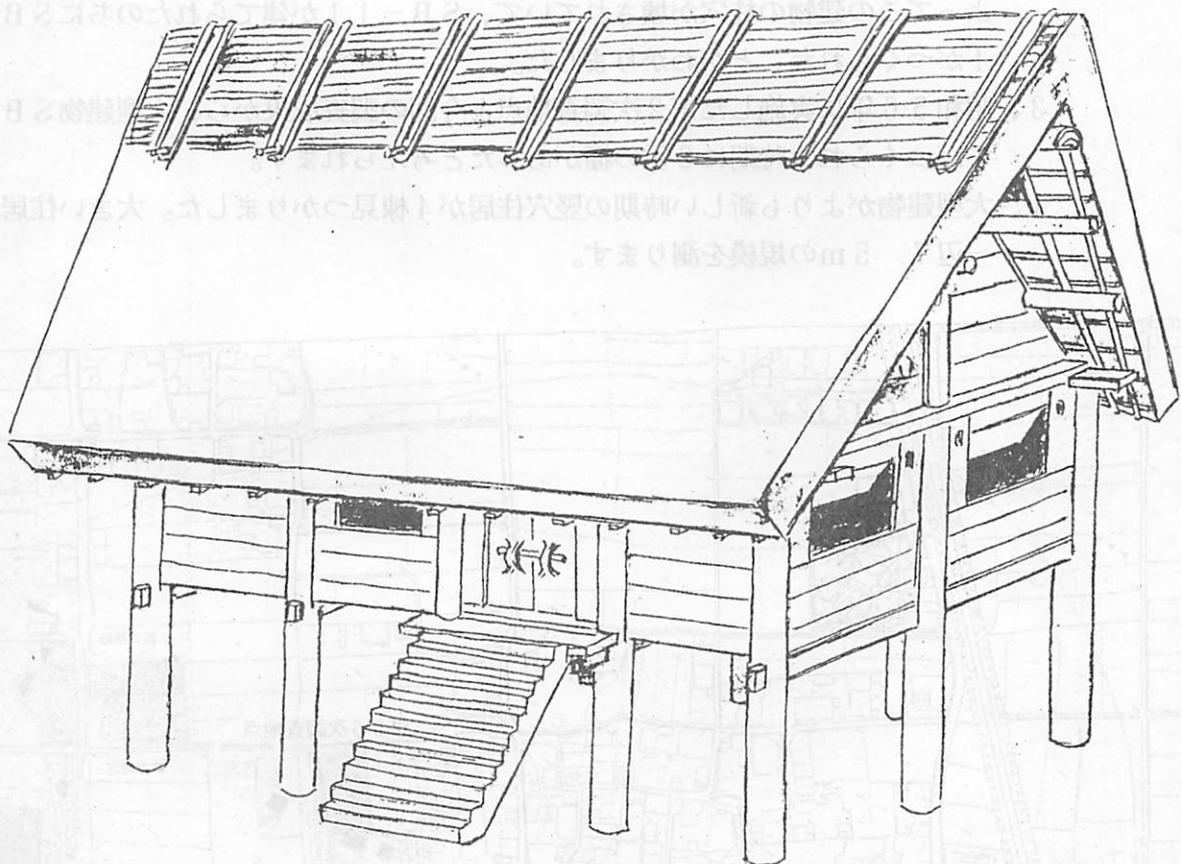


伊勢遺跡現地説明会資料

(56次)



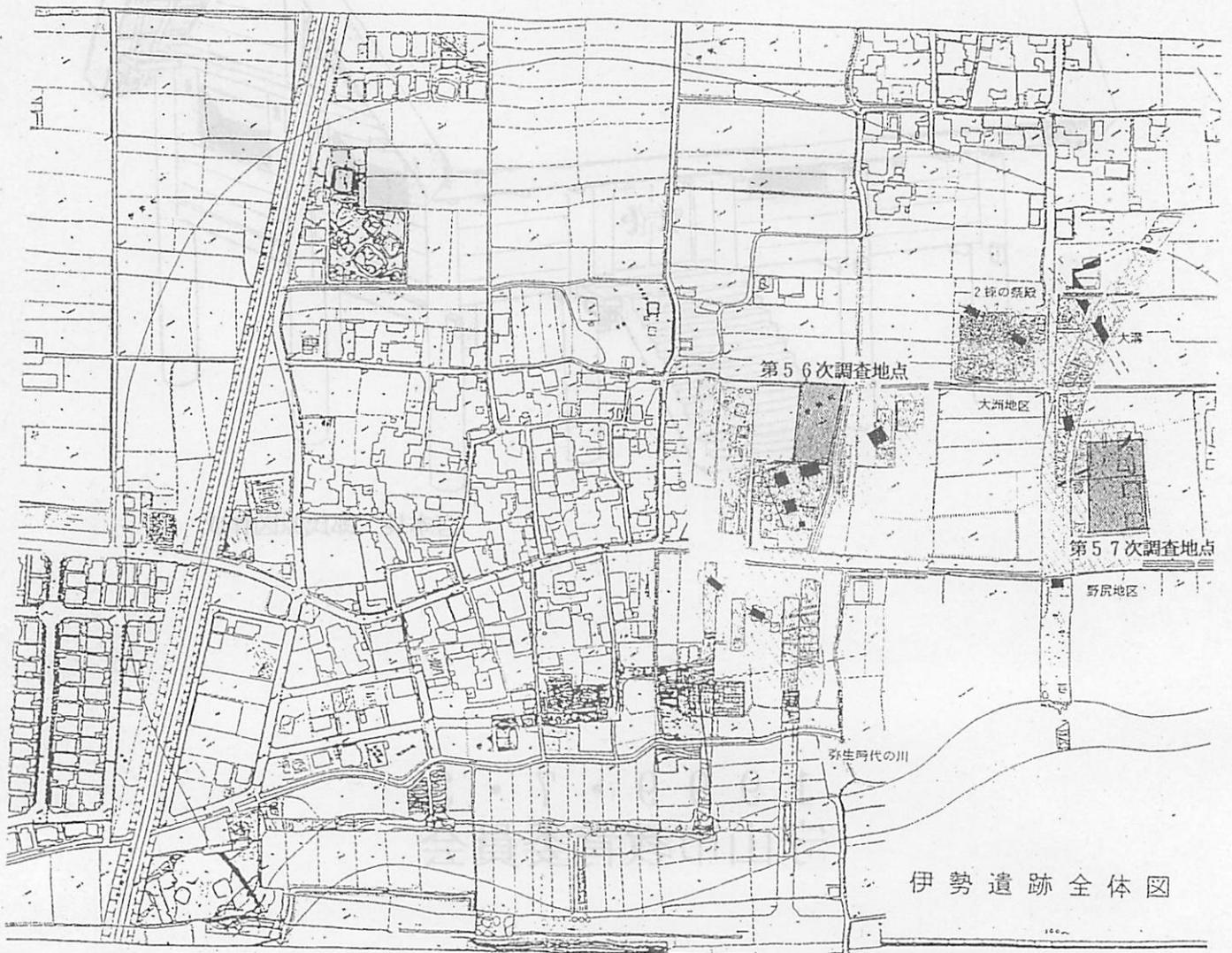
宮本長二郎氏原図作成

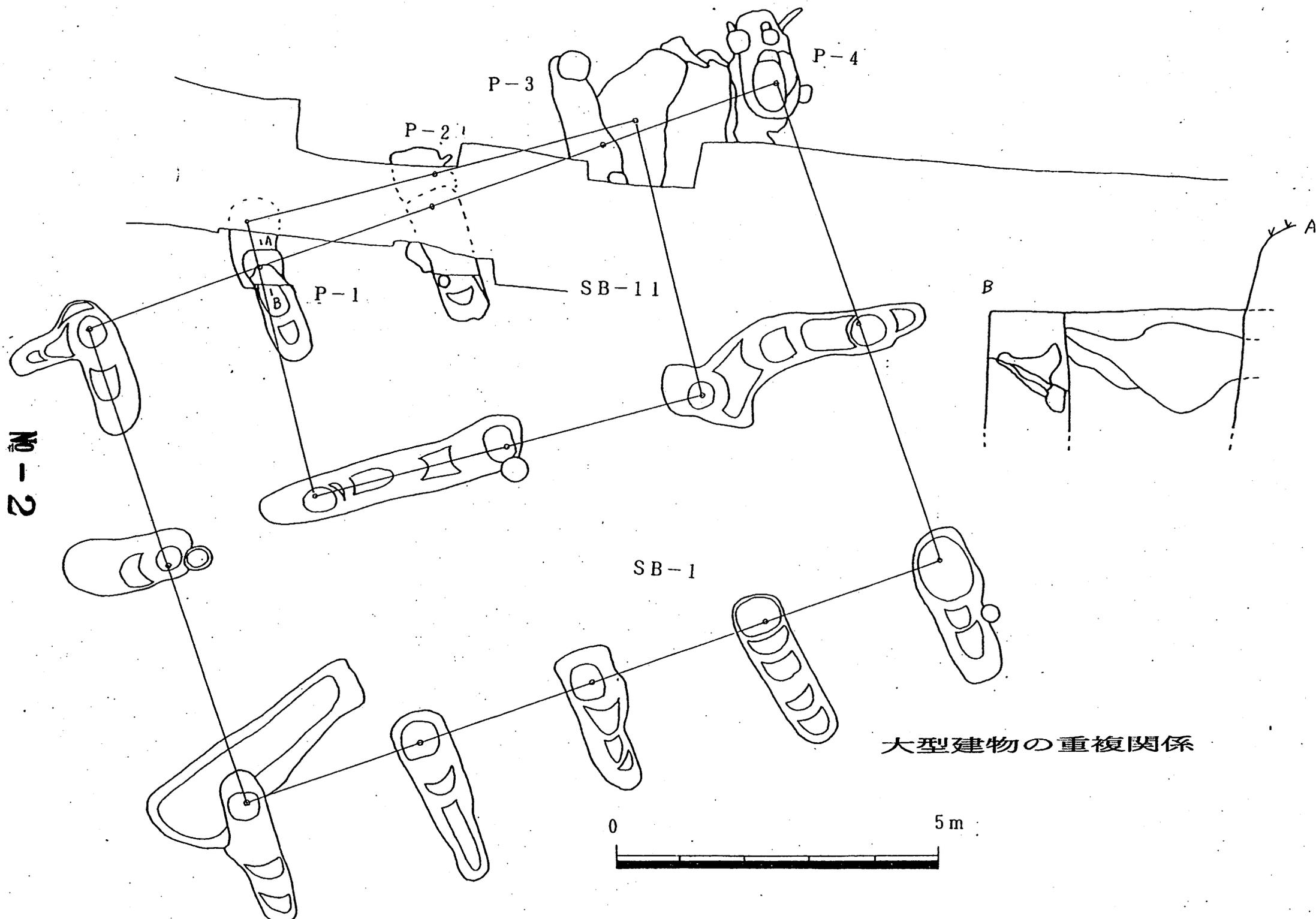
1999・7・3
守山市教育委員会

伊勢遺跡第56次調査概要

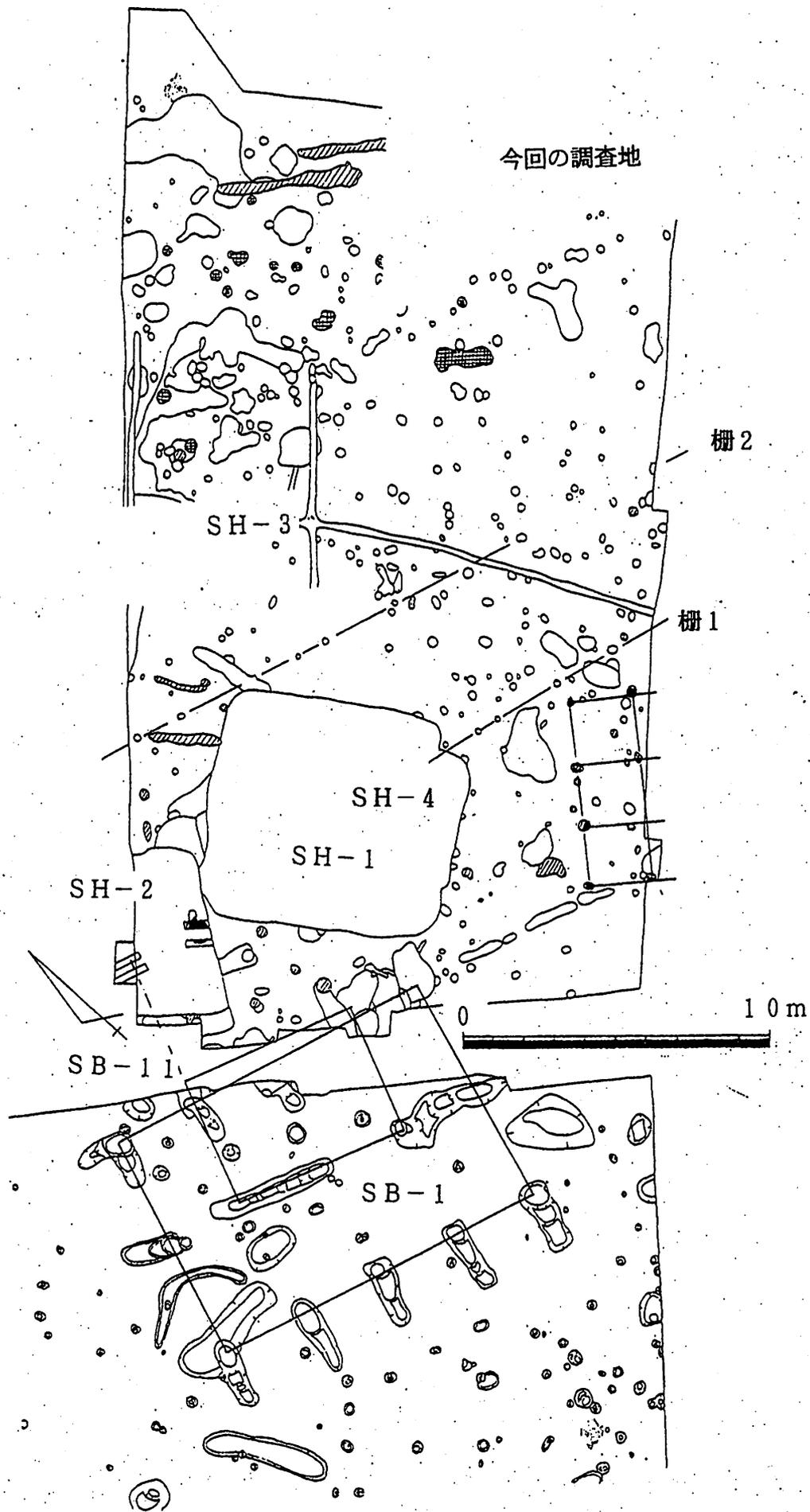
- 1、所在地 守山市伊勢町78番地
- 2、調査面積 約1,000㎡
- 3、調査期間 平成11年5月10日～同7月上旬(予定)
- 4、調査原因 重要遺跡確認調査
- 5、調査成果

- 1、弥生時代後期の大型掘立柱建物(SB-1)のすべての柱跡の位置を確認することができました。その規模は、2間×4間(7.8m×11.3m)で、床面積約88.1㎡を測る大規模なものです。
- 2、SB-1に先立つ建物跡(SB-11)が発見されました。SB-1の柱穴によってこの建物の柱穴が壊されていて、SB-11が建てられたのちにSB-1が作られたことがわかりました。
- 3、昭和56年に実施した第2次調査地点と今回の調査成果から、大型建物SB-1が作られた時期に2重の柵があったと考えられます。
- 4、大型建物がよりも新しい時期の竪穴住居が4棟見つかりました。大きい住居で一边7.5mの規模を測ります。

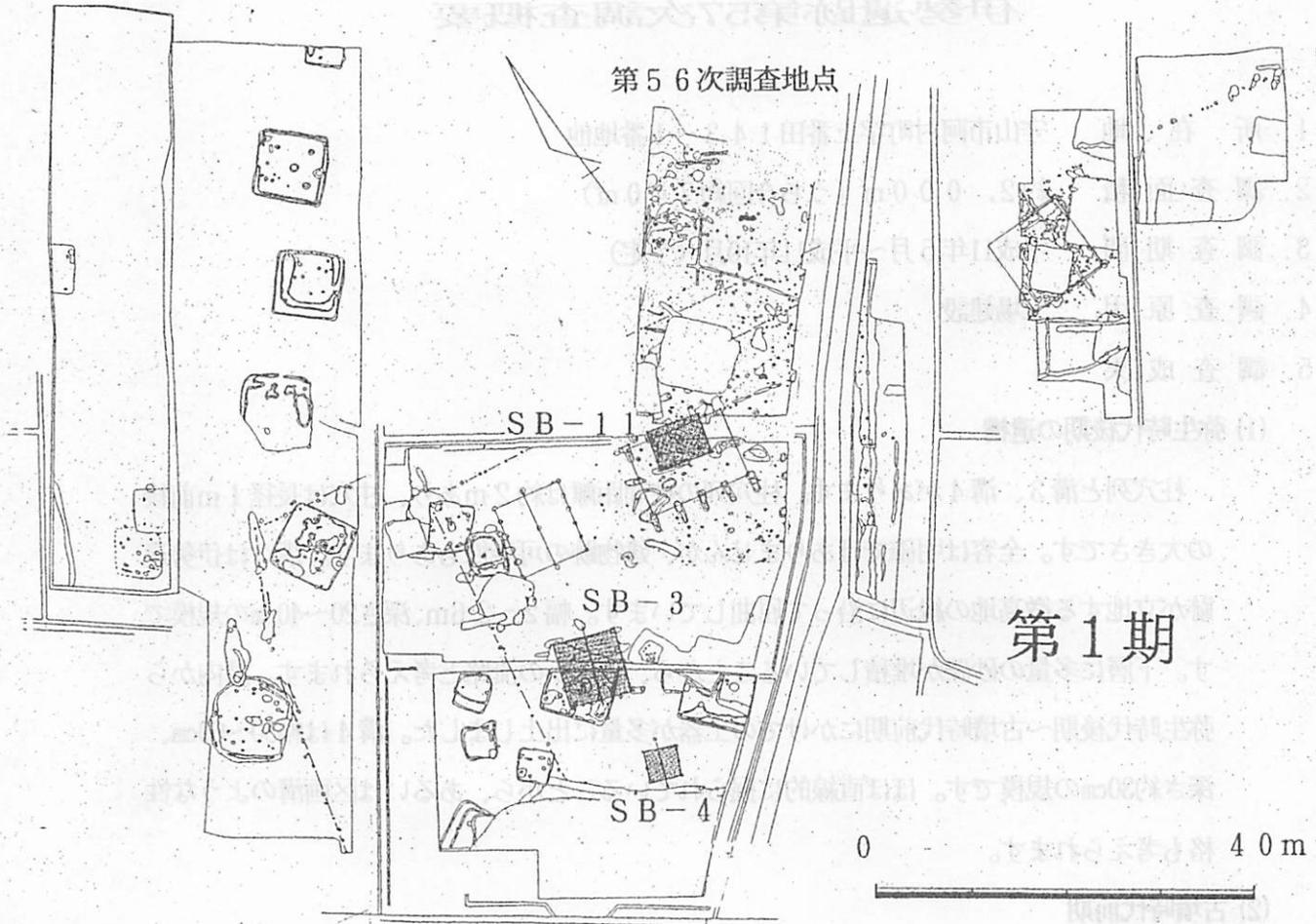




大型建物の重複関係

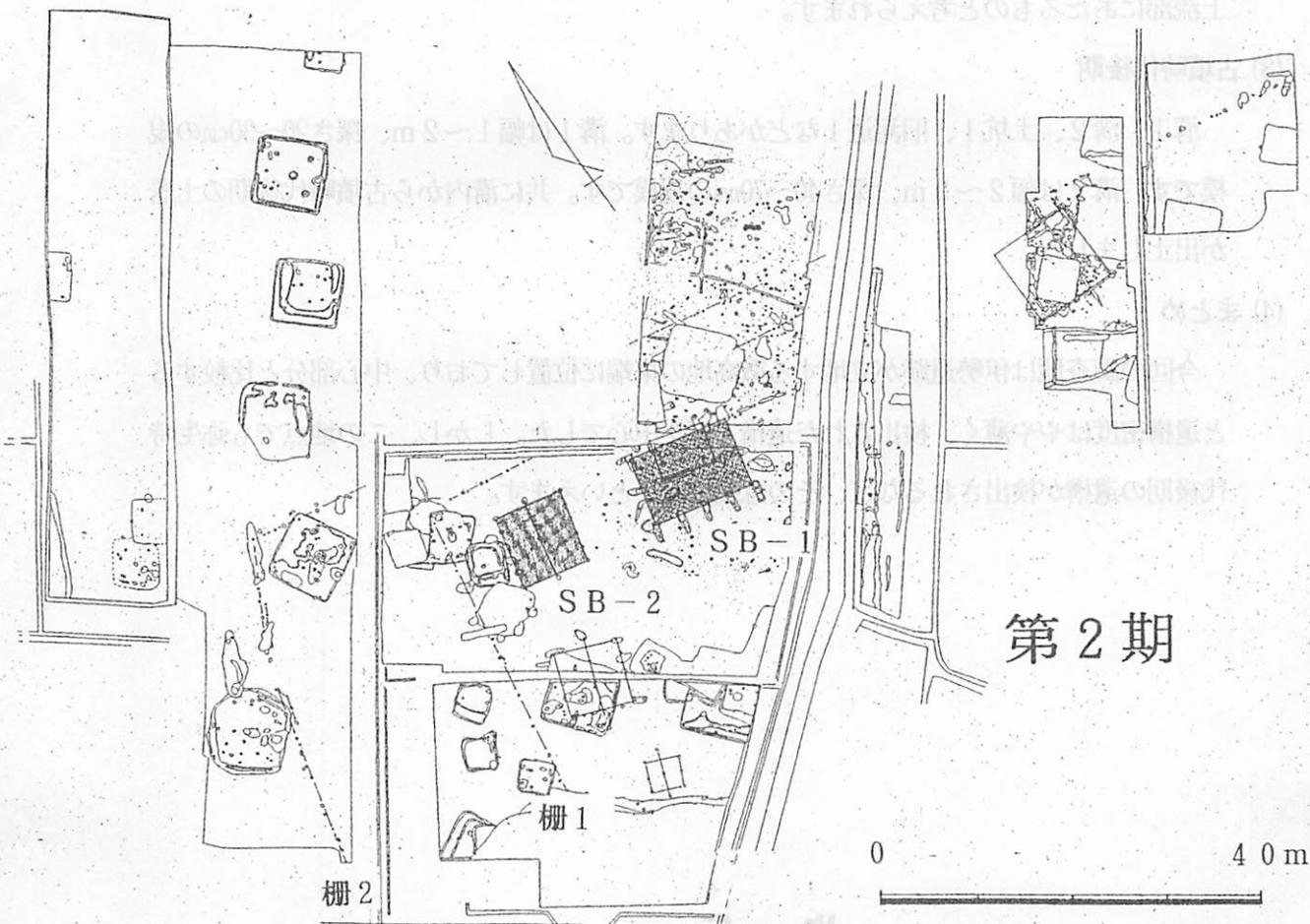


第56次調査地点



第1期

0 40 m



第2期

0 40 m

伊勢遺跡第57次調査概要

1. 所在地 守山市阿村町字上番田143-1番地他
2. 調査面積 約2,000㎡(うち今回約740㎡)
3. 調査期間 平成11年5月～平成11年10月(予定)
4. 調査原因 工場建設
5. 調査成果

(1) 弥生時代後期の遺構

柱穴列と溝3、溝4があります。柱穴列の柱間距離は約2mあり、柱穴は長径1m前後の大きさです。全容は明確ではありませんが、建物跡の可能性もあります。溝3は伊勢遺跡が立地する微高地の縁辺に沿って屈曲しています。幅2～2.6m、深さ20～40cmの規模です。下層に多量の砂礫が堆積していることから、何らかの流路と考えられます。溝内から弥生時代後期～古墳時代前期にかけての土器が多量に出土しました。溝4は幅50～60cm、深さ約30cmの規模です。ほぼ直線的に掘られていることから、あるいは区画溝のような性格も考えられます。

(2) 古墳時代前期

旧河道2の北側肩部を一部検出しました。第18次調査で検出されている同時期の河道の上流部にあたるものと考えられます。

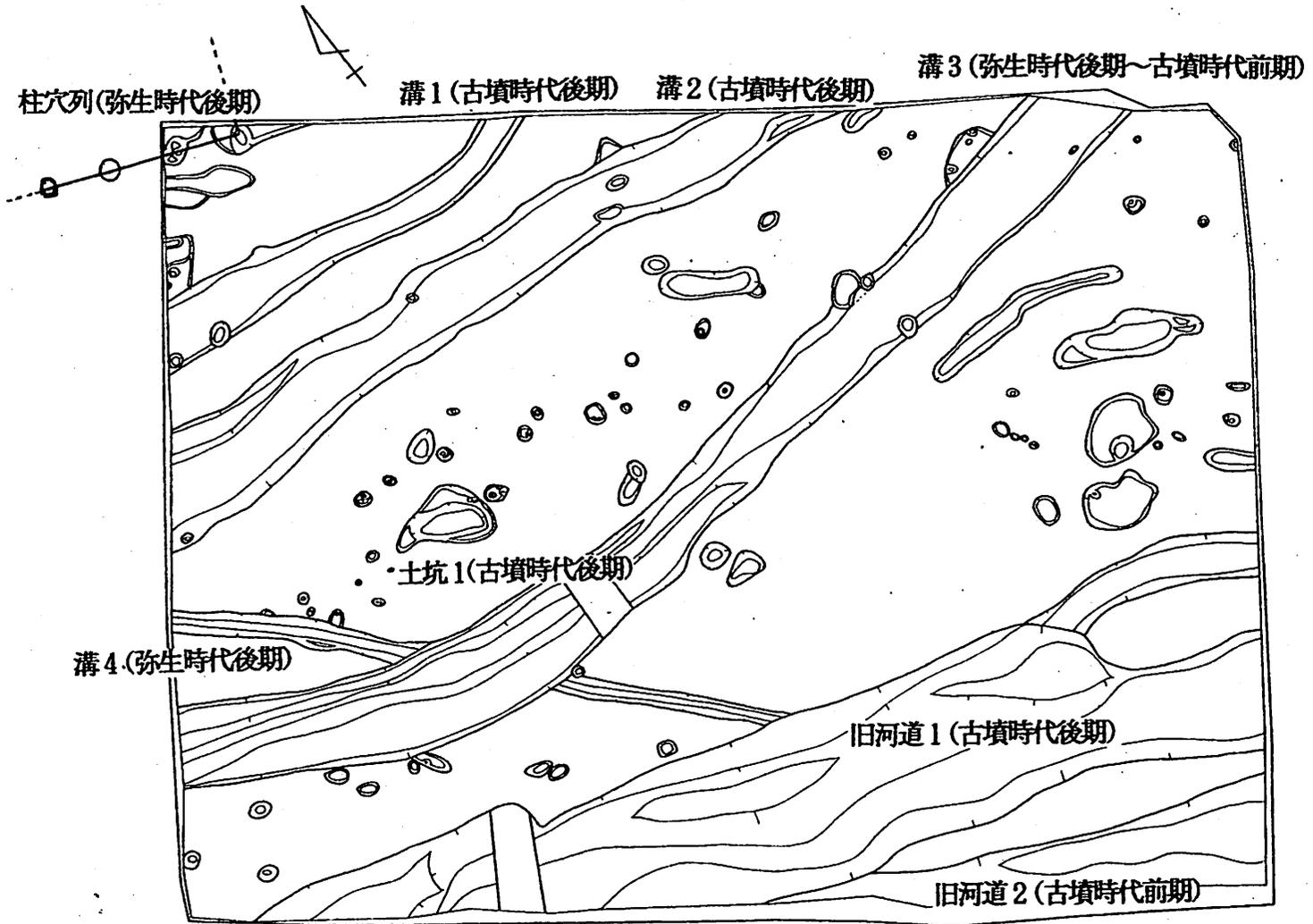
(3) 古墳時代後期

溝1、溝2、土坑1、旧河道1などがあります。溝1は幅1～2m、深さ20～30cmの規模です。溝2は幅2～3m、深さ40～70cmの規模です。共に溝内から古墳時代後期の土器が出土しました。

(4) まとめ

今回の調査地は伊勢遺跡が立地する微高地の東端に位置しており、中心部分と比較すると遺構密度はやや薄く、検出された遺構も溝が中心でした。しかし、この地点でも弥生時代後期の遺構が検出されるなど、その意義は高いといえます。

No-5



伊勢遺跡第57次発掘調査第1調査区遺構平面図 (S=1/200)